説教20210926民数記11：4-6　マルコ9：38-50

「味わい深く生きる」

キリストよお越しください。弟子たちの中に立ち、復活の御姿を現されたように、私たちの内にもお臨み下さい。

「おふくろの味」という言葉があります。この言葉は昔から、母親などの親たちが、子供たちに家庭料理を味わわせて、そこで培われた味覚が子孫へと受け継がれていくことをほめたたえる大変よい意味の言葉でありました。家庭料理の味わいはそうやって子々孫々へと伝承され、一族の結束を強めるために大変役立ったものと思います。

　さて、聖書でもそれと同様のことがしるされています。同様というよりも、味覚による民たちの結束は、「塩の契約」という言葉で、「おふくろの味」よりもはるかに重い事柄としてしるされているのです。

レビ記2章 13節には「穀物の献げ物にはすべて塩をかける。あなたの神との契約の塩を献げ物から絶やすな。献げ物にはすべて塩をかけてささげよ。」としるされていますが、自分たちが神に捧げる献げ物に、塩をかけるとはどういう意味なのでしょうか。それは一つには塩梅よく塩をかけて、味を整えて、神様にその献げ物を味わってもらうという意味もあるのです。　さて私たちの主なる神は生きている神であられます。その生きている神は結構、味にうるさいお方なのではないでしょうか。この古代の神の民たちもそう思って、慎重にさじ加減をしながら、献げ物に塩をかけていたことでありましょう。

そうしてそれからのことは次の聖句に聞いてみましょう。民数記 18章 19節「イスラエルの人々が主にささげる聖なる献納物はすべて、あなたとあなたと共にいる息子たち、娘たちに与える。これは不変の定めである。これは、主の御前にあって、あなたとあなたと共にいるあなたの子孫に対する永遠の塩の契約である。」ここで塩の契約という言葉が出てきます。又、献納物が与えられる息子たち、娘たちという子孫のことも出てきます。つまり、塩の契約というのは、自分たちの神に喜んでもらえる味覚を通して、その味覚が神から親へ、そして親から子供へと喜びのうちに受け継がれ、その結果、一族の交わりが永遠に保証されるという契約、すなわち約束なのであります。このように塩の契約という、神と人間との契約が、味覚という体に訴えかけることを通して成り立っているということは、大変人間味があることですし、又、一面、嘘を付けないという怖さもあることでしょう。

　今日のマルコ福音書9章50節でイエス様は、「自分自身の内に塩を持ちなさい。そして、互いに平和に過ごしなさい」と言われています。この御言葉も、塩の契約をふまえたもので、よい塩梅の塩の加減によって、私たちが子々孫々と平和のうちに交わり、過ごしていけることをイエス様は教えてくださいます。さてこのように味覚というのは、私たちの交わりにとって大変重要な役割を果たしていることが明らかにされましたが、初めから申し上げておきますに、この味覚というのは、単に、食べ物だけにとどまる話ではありません。それと同様に大切な、御言葉のうちにも味覚というのはあるのです。コロサイの信徒への手紙4章 06節

いつも、塩で味付けされた快い言葉で語りなさい。そうすれば、一人一人にどう答えるべきかが分かるでしょう。

このように記されていますが、私たちが発する言葉の一つ一つも、味付けがされています。甘い言葉、辛い言葉、酸っぱい言葉、励まされる言葉、落ち込ませる言葉など、様々な味付けが成されています。ひょっとすると言葉の味付けの種類は、食べ物の味付けの種類よりも多種多様かもしれません。　　それは私たちが御言葉を語るときも例外ではありません。御言葉は主なる神の言葉でありますが、実際には私たちの口を通して、隣人に語られます。その時、私たちの発する御言葉が、どのように味付けされているのかということは、慎重に考えていくべきことだと思います。

　では聖書箇所を見て参りましょう。マルコ福音書9章38節には、ヨハネがイエス様に言った言葉が記されています。「先生、お名前を使って悪霊を追い出している者を見ましたが、わたしたちに従わないので、やめさせようとしました。」このヨハネの言葉をよく味わってみましょう。ヨハネは、イエスと一面識もないようなこの者が、イエスキリストの名を利用して、悪霊払いをしていることに憤慨しました。イエス様の名前を利用して活動するのは怪しからんというわけです。ヨハネはこの時「イエス様の名前を語ることが出来るのは、弟子として認められた私たちだけだ！もし、続けたいのなら私たちの弟子になれ」などと、居丈高いたけだかに、声を大にして、この者に迫ったことでありましょう。このように黙想していきますと、このヨハネの言葉は、知れば知るほど味気ない、すれっからしの言葉に響いて参ります。ヨハネは、現場ではこのように居丈高に迫っておりながら、いざ、イエス様の前に出て報告する段になると、態度を急変させて、うやうやしくへりくだってご報告つかまつっているその言葉は、何とも、みじめさもにじみ出るような味わいであります。

さてこのように報告を受けたイエス様は全てをお見通してあります。ヨハネに対し、事の次第を事細かに事後報告させるでもなく、又、彼を激しい言葉でとがめたでするでもなく、ただ、「わたしたちに逆らわない者は、わたしたちの味方なのである。」という御言葉を与えられました。この御言葉を聞いたヨハネはハッとさせられたのではないでしょうか。まさに一生忘れられない味わい深い御言葉であります。ヨハネはそれまで、弟子の間で一番誰がえらいかですとか、このやり方こそ私たちの専売特許だ、等という現世的、人間的な思いに縛られていたのではないでしょうか。ですから、人との関係よりも神との関係がはるかに重要であることをこの簡潔な御言葉で指摘され、この時のヨハネの心にはイエス様のこの御言葉が抜き差し難く突き刺さったのであります。　更にイエス様は言われます。

「はっきり言っておく。キリストの弟子だという理由で、あなたがたに一杯の水を飲ませてくれる者は、必ずその報いを受ける。」　この御言葉も、私たちにも大変味わい深いことと思います。私たちも、人を非難することに向かうのではなく、このように、ただ、その時出来ることを、イエス様の名によって成せば善いのです。この御言葉は、語られていますように、一服の水の清涼な味わいを、私たちに味わわせてくれます。しかし、この時、これを聞いたヨハネには、この御言葉も多少耳に痛かったのではないでしょうか。

ところで、私たちが、同じ御言葉を生涯にわたって何度も何度も繰り返し聞き続けるのは一体なぜなのでしょう。それは、御言葉は不変ですが、それを受け取る私たちは絶えず変化しているからでしょう。例えば、この時のヨハネにとっては、幸いにもこの御言葉は一生忘れえない、かけがえない言葉として残りました。。私たちにも、時にかなって、御言葉をこんな風に味わい深く、忘れられない言葉として受け取る機会が数多く与えられています。願わくは、その御言葉を私たちが確かに受け取っていくことが出来ますように。

さて、ヨハネ福音書9章42節から、イエス様は実はとても怖いことを啓示しておられます。いや、そんなことは地獄に投げ込まれる、ことの次第が書いてあるのだから、一目瞭然だろうと言われるかもしれません。しかし、この箇所も、味わい深く読み進めれば、私たちが思っていたことよりもはるかに怖いことが書いてあることが知らされるでしょう。

 42節

「わたしを信じるこれらの小さな者の一人をつまずかせる者は、大きな石臼を首に懸けられて、海に投げ込まれてしまう方がはるかによい。」これも有名な味わい深い御言葉であります。この中で「これらの小さな者」という語句がありますが、果たしてこれらの者とは誰のことを指しているでしょうか。すぐわかるのは、前節に記された「キリストの弟子だという理由で、あなたがたに一杯の水を飲ませてくれる者たち」のことであります。そうしてその様に理解するとき、私たちは、当然、そんな善い行いをする者をつまずかせる者は、善くないよと考えて、この御言葉を、その通りですと素直に受け入れることが出来ます。しかし、これまでのイエス様とヨハネの間の会話の流れを注意深く見てみますと、イエス様は次のように話を発展させておられるのに気が付くでしょう。それはどういうことかと言いますと、この悪魔祓いの者は私の味方であり、私の次の弟子でもあり、私の弟子として、隣人によい働きかけをする者であるということです。このようにイエス様が、「わたしを信じるこれらの小さな者」の一人に、この悪魔払いの者を数えておられるとしたら、この御言葉を聞いたヨハネは、ぞっとしたに違いありません。その場合、この御言葉はヨハネにとってまさに自分事として味わわざるを得ない言葉になるからです。弟子たちにとってもそしてイエス様にとっても取るに足りないと思っていた、この悪魔祓いの者が、実は、イエス様にとってはかけがえのない小さな者であったということを、ヨハネは知らずにいました。そして、この御言葉を聞いたとき、ヨハネの味覚が確かならばですが、彼はまたハッとさせられたことでしょう。

今日のヨハネ福音書の箇所は、知らず知らずのうちに人をつまずかせるという罪を犯しているヨハネに対して、イエス様が味わい深い御言葉で、気づかせ教え導いている箇所であります。ヨハネはなぜこの悪霊払いの者を、いとも簡単に排除しようとすることが出来たのでしょうか。それはヨハネが、この者を小さいものとして軽んじたからに他なりません。ヨハネは自分たちがイエス様の前に大きな存在であると考え、この者のことはいわばどうでもよかったのです。イエス様はその様なヨハネの態度を、御言葉によって容赦なく、糾弾し悔い改めを促しておられます。後は、ヨハネのほうがその御言葉の意味に気が付くかどうかであります。

　最後にイエス様は塩の味の話をされます、それはなぜでしょうか。それはヨハネのことを思い返せば明らかになりますが、ヨハネは、今日イエスさまから多くの御言葉を聞かされました。そして、その御言葉がどの程度この時のヨハネの心に突き刺さったのかは、私たちには実のところ分かりません。なぜならば、それはヨハネ自身の御言葉を味わう味覚の鋭さにかかっているからです。ヨハネはこの時御言葉をはっきり悟ったのか、あるいは理解しなかったのか、それはヨハネ自身の問題であります。このように私たちが、各人それぞれが御言葉を受け取って、それを味わい理解するのだということを、イエスさまは最後に、「塩は良いものである。だが、塩に塩気がなくなれば、あなたがたは何によって塩に味を付けるのか。自分自身の内に塩を持ちなさい。そして、互いに平和に過ごしなさい。」という御言葉で私たちに示しておられます。自分自身の内の塩、ということはどうやってっも自分以外の隣人には肩代わりできない自分自身の味覚であります。しかしその味覚は教えられ、伝承されるものでもあります。私たちは、その様に、御言葉を自分自身で味わい、そしてその味を伝えながら、互いに平和に過ごしなさいとイエスは言われます。願はくはこの一週間も私たちがこの御言葉を味わいつつ、平和の裡に過ごしていくことが出来ますように

祈ります

天の父

私たちは知らず知らずのうちに自分自身を大きなものと考え、となり人を小さな者と思ってしまうような愚かな者です。そして、知らず知らずのうちに、その小さなものをつまずかせてしまうような罪ある行いから逃れえないものであります。どうかそのようなｓｘ私たちの罪を許し、私たちをお救い下さい。

あなたは、いつも私たちに豊かに御言葉を与え続けておられます。どうか私たちが自分自身の内に塩をもち、御言葉を味わえるようにしてください。そして御言葉を受け取った私たちを、小さな者たちへ清らかな水の一杯を差し上げる者とならしめてください。

この世の中は、全てあなたの御手のうちに営まれ、私たち人間の目から見れば不可解なことも数多く起こっています。明日のことは私たちには見通すことができません。しかしあなたは今ここに私たちを御手のうちに安らわせ、又、あなたの御計画に従って歩む日々の一歩一歩を備えて下さいます。そのあなたの恵みと祝福に感謝し、あなたに賛美を捧げます。

この一週間も私たちがあなたを信じ、悩む人、苦しむ人、孤独を感じている人、怒りを感じている人たちに、私たちが寄り添い、一杯の水を差し上げる生活を送っていくことが出来ますよう、私たちを励まし導いてください。

父と聖霊と